3研修会関係

研究・研修報告書

令和７年８月２９日

小牧市議会議長　様

会派名　　牧政会
代表者氏名　鈴木　裕士

研究・研修の結果を報告します。

記

１参加議員

小島倫明、舟橋秀和、河内伸一、鈴木裕士、佐藤悟、余語智、
阿部哲己、永井孝典

２日程

令和７年８月２７日（水）から８月２８日（木）

３研究・研修名

全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
大会テーマ：地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて

４主催者　全国市議会議長会

５会場　　札幌文化芸術劇場 hitaru
（札幌市中央区北１条西１丁目札幌市民交流プラザ 4F）
中継会場　札幌パークホテル 3F「エメラルド」
（札幌市中央区南 10 条西３丁目１番１号）

６受講の目的

令和５年４月２６日、地方議会の役割及び議員の職務等の明確化等の地方自治法の一部改正が成立し、多様な人材の地方議会への参画に向けた環境整備が進められている。

人口減少に伴い合意形成を行う上で、地域の多様な民意を集約する議会の役割は大きく、そのためには、多様な人材が参画し、住民に開かれた議会を実現することが重要である。

しかしながら、現在、議員の構成は、性別や年齢構成をみると多様性に欠けており、住民の議会に対する関心は低く、議会の魅力さえもなくなってきていることが、議員のなり手不足の原因の一つにもなっている。

このような状況の中、地方議会議員のなり手不足問題の取組事例などを検証する今回の全国市議会議長会研究フォーラム（大会テーマ：地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて）を選定した。

７主な内容

８月２７（水）

・基調講演

「主権を預かる誇りと責任」伊吹文明　元衆議院議長

・パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター　辻　陽　近畿大学法学部教授

８月２８日（木）

・課題討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター　牧瀬　稔　関東学院大学法学部教授

【８月２７日（水）】

〇あいさつ及び説明者

・全国市議会議長会会長　丸子善弘　山形市議会議長

今回の研究フォーラムは 2500 人の募集で 3000 人の応募があり、500 人は参加できなかった。このフォーラムは、総務省が後援となっており、共通する課題について、議論を深めていただければと思う。

今回は、若者や女性、会社員など多様な人材の参画を促し、議会が活性化することは、すべての市議会の共通の課題となっている。

令和５年の統一地方選挙を検証すると、小規模な市議会では、議員のなり手不足が深刻化している。

そのような中で、令和５年に地方自治法が一部改正され、地方議会の役割及び議員の職務等の明確化が規定された。

今回のフォーラムでは、「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」をテーマとして、事例を検証するなど、その解決に向けた今後の方向性を皆さんと共に展望していく。

加えて、議員の厚生年金加入促進について国に働きかけをしているところである。しかしながら、国に意見書を提出している市は 68.8%で、都道府県と町村にあたっては 75%となっている。

今後、意見書の提出をされていない自治体については、国への提出をお願いする。

・札幌市議会議長　長内　直也

今日のフォーラムは、大変貴重な機会なので、活発な意見交換、討議をお願いする。

・札幌市長　秋元　克広

今日のフォーラムが、実り多いものとなるよう、また地域づくりに繋がるよう期待する。

〇基調講演

伊吹文明　元衆議院議長

・議員は、主権を預かる者として、誇りと責任を持つことが肝要である。

・また議員は、市の主権を預かっている重い立場にある。
・市長と議員との間では、議員は強い権限というものは持っていない。
・どんな制度にも長所と短所があり、そこを見極める能力が必要である。
・議員のなり手不足問題の一つには、議員を辞めた後の保障がないので、議員をやりたがらない。
・議員を辞めた後、生活保護を受けている者もいる。
・地方議員の方々は、地域から尊敬される議員になってください。
・また、選ばれた者として義務をもって活動してください。

○パネルディスカッション
「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター　辻　陽　近畿大学法学部教授
パネリスト　牧原　出　東京大学教授
白石　洋一　読売新聞東京本社政治部次長
山下　節子　山口県宇部市議会議長
長内　直也　北海道札幌市議会議長

▻辻　コーディネーター
議員のなり手不足や投票率低下がある中で、地方自治法の一部改正があり、地方議会の役割や議員の職務等を法律上明確化された。３つの観点とした。

パート１：地方議員のなり手不足問題
パート２：なり手不足問題に関する３つの論点
・議員の多様性や住民代表性の確保
・議員報酬のあり方
・地方議会の役割及び議員の職務等の明確化
パート３：なり手不足問題の解決に向けた提言
以上の観点から４名のパネリストから考えを聞く。

▻牧原　出
現在、人口減少の対策に関わっているが、国、都道府県、市町村の枠が

一律すぎる。地方自治は重要だが、全てを市町村でこなせなくなっている。

人口減だからこそ、その対策として取り組む行政事務が増えたり、デジタル化だからこそ、増えていく行政事務があることに視点を向ける必要がある。

今後、議会においても人口管理を行っていく必要がある。

▷白石洋一

有権者からのアンケートでは、地方議員のなり手不足の要因として、立候補するのにお金がかかりすぎる、議員の仕事に魅力を感じない、落選したら職を失う、議員の仕事を知る機会がない、兼業が難しいなどの順となっている。このようなことから、議員の働き方改革が必要と考える。

手法としては、クォーター制、夜間議会、オンライン導入である。また、会社員が立候補できるように、立候補休暇の導入も考える必要がある。

さらに、ふるさと納税ならぬ、「ふるさと議員」制度の導入の可能性も秘めているのではないか。当該市町村には住んでいないが、外から政策アイディアを提唱し、ふるさとに貢献するものである。

▷山下節子

人口減少が進み、地方自治体が多くの課題を抱える中、議会も政策提言能力を備えることが必要であり、地方議員には資質・能力・意欲とも高いものが求められる。そういった中で、志の高い人材が立候補しやすい環境整備を進めていく必要がある。

地方議員は、一般質問をやっていればいいというものでもない。議員は常に課題を見つけ、政策提言につながる活動が必要だ。

また、地方議員は兼業議員ではなく、本業としてやれる体制づくりも必要だ。

宇部市では、議員の議会活動を知らない市民も多くいる。身近に感じてもらうため、また主権者教育の一環として、学校と議会が連携し「高校生議会」「小学生の模擬選挙」を行っている。さらに、選挙広報を作り、子どもたちと議会が身近になるよう工夫も凝らしている。

地方議会議員の厚生年金への加入については、議員が地方公務員共済組合の資格を取得し、会社員が議員に転身した場合も切れ目なく社会保障制

度を継続することで、現役世代が家族の将来や老後の生活を心配することなく立候補できる体制づくりを真剣に考えていく必要がある。

▻長内直也

札幌市議会では、主権者教育の一環として、夏休みに小中学生の議場見学を実施している。少人数でも受け入れ可能としており、夏休みの自由研究としても活用いただいている。議会の１年間がわかるよう「札幌市議会の１年間の流れ」(定例会の日程等)のチラシを議会だよりにも特集記事として掲載している。

以前に札幌市議会選挙で､無投票となったことがあった｡危機感を感じ、立候補の多様性を求めるため、会社員の「立候補休暇制度」なども議論した。報酬も十分ではないという意見もあり、今後の大きな課題の一つになっている。

市議会開設 100 周年を記念して、令和４年７月に「市議会子ども教室」を開催した。

▻辻　コーディネーター

なり手不足の一つの対策として、議員を目指すための環境整備が重要であることが共通認識された。報酬、厚生年金、立候補休暇等についての改善が挙げられた。地域差はあるものの改善の余地はあるものと考える。

また、議員の魅力発信も鍵になる。議会報告会や市民の意見を聴く会などはもとより、近年、子ども議会などの主権者教育に取組む自治体が増えてきている。このような場面を子ども及び学生のころに体験することで、議員を身近に感じ、議員の魅力を感じとれるものと考える。

さらに、議員の資質及び見識を高めるとともに、議会力の向上にも力を注ぐ必要がある。議員は、様々な分野を勉強し、政策論争できるまでの力を身につけることが肝要である。

【８月２８日（木)】

〇課題討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター　牧瀬　稔　関東学院大学法学部教授
事例報告者　今井　康善　長野県岡谷市議会前議長
平神　純子　鹿児島県南さつま市議会議員
中野　進　石川県白山市議会議長

▷牧瀬　稔　コーディネーター

人口 927 人(R7.7.1)の京都府笠置町では、議員のなり手がいないため、議員全員が親族で担うこととなった。２家族が議員となり、議会運営をされていることから、将来的な議会運営が懸念される。

全国の現状をみると、無投票率が高くなっているのは、県議会選挙と町村議会選挙である。県議会は、立候補しても勝てないから出ない、町村議会は、コスパが悪いので出ない傾向にある。

議員のなり手不足は、2010 年頃から増えてきている。なり手不足には、出馬してもどうせ勝てないことで控える「諦観的なり手不足」と、議員報酬が低いことなどで控える「必然的なり手不足」がある。

例えば､選挙ではなく実態に合わせた求人募集をかけるとどうなるのか。「月額約 21 万円、福利厚生なし、原則として諸手当なし、原則として昇給なし、退職金なし、業務は裁量労働」。これで議員は到底集まるとは考えにくい。

今回は、具体的な取組内容、成果と課題、議会への提言について議論を進める。

▷今井　康善

令和５年の統一地方選挙では、全国で２１自治体が定数割れした。岡谷市では、告示１カ月前で定数１８人中１１名しか届け出がなかった状況であった。結果、全国の市の中で岡谷市だけが、定数割れとなり不名誉な事態となった。

これを受け、市議会の挑戦として、議会情報のオープン化、各議員のマニフェストの政策公開、一般質問の傍聴キャンペーン、議場内コンサートを実施した。

また、広聴面では、公民館での市議会講座を中学生、子育て世代、シニア世代に向けて実施した。

さらに、「岡谷市に議員は必要か？」というチラシを作り、議会運営の専門講師を招き、シンポジウムを行った。

議員と議会とのグループウエアをつくり、ペーパーレス化にも取り組んだ。

議員定数に関しても議論を進め、令和７年６月定例会において、議員提案として議員定数を１８人から１６人に変更する、議員定数条例の改正が可決された。報酬については、現在、報酬審議会の開催を要求したところである。

▷平神　純子

1996 年、「鹿児島県内の女性議員を 100 名にする会」を立ち上げた。また全国の女性ゼロ議会を無くすことを目指しており、現在６自治体が、女性ゼロ議会となっているので、解消に向け取り組んでいる。

鹿児島県は、特に男尊女卑の傾向が強く残っており、女性議員がなかなか生まれてこない現状がある。女性議員を増やす活動をする中で、応援した女性が当選すると大変うれしく思う。逆に女性の応援をしすぎて、私自身が落選することもあった。今までの当選成績は、６勝４敗だ。

いろいろ選挙活動をしていてわかったことは、選挙には大人数はいらない。２人か３人応援者がいて、情熱をささげれば当選する。

また、議員をやっていて、勉強をしない議員が多いことに驚いた。議員活動を活発に行っている者が、必ずしも当選するとは限らないこともわかった。

議員のなり手不足は、議員に問題があるものと考える。市民から見て毎日何をやっているのかわからない議員もいる。議案に対して、賛成賛成と言っているだけでいいのか。100%議案を通すのであれば、それなりに議員自身が勉強しなくてはいけない。

今後は、６自治体が女性ゼロ議会となっているので、情熱をもって取り組んで行く。

▷中野　進

白山市では、告示２週間前で定数２１人より２人少ない状況であった。そのため、今回で議員を辞める人に出馬要請をかけ、なんとか定数に至っ

た。

議会としては、議員のなり手不足に危機感を強めた。そのため、「未来へつなぐ議員の在り方検証委員会」を設置し、議員同士の本音トーク、シンポジウムの開催、市民との意見交換会などを実施した。

本会議や委員会への欠席理由として、これまでの「事故」から、「公務、疾病、育児、看護、介護、配偶者の出産補助」とし、また、出産に伴う欠席期間(産前・産後とも８週間)についても会議規則を改正した。

委員会の開催場所へ行けないやむを得ない事由によるオンライン出席、本会議においてもオンライン出席できるよう意見書を議会議案として提出し可決、衆議院議長ほか関係大臣に送付した。

市民との意見交換会では、「みんなでギカイを考えるキカイ」と銘打ち、PTA 連合会、商工会議所青年部、農業協同組合青年部、連合壮年会など 19 団体、154 人と意見交換ができ、大変好評をいただいた。

▷牧瀬　稔

議員のなり手不足において、様々な取組が共有できた。市議会講座やシンポジウム、女性議員を増やす活動及び議員の資質を高める必要性など、自治体によって取組は違うが、目標とする方向は同じである。

人口減少が加速している中、議員を継続的に確保していくには、議員の環境整備はもちろん、議員になるための情熱づくりも必要と考える。

今後もさらに取組を深化させ、議員のなり手不足に対応していく必要がある。

８所感・提言・課題等

〇課題

・若者の地方議会への関心の低さをどのように高めていくのか。
・地方議会への女性議員を増やす必要がある。
・議員報酬が低いので、議員になりたくない。
・退職金がないため、辞めた後の保障がない。
・議員は厚生年金に加入していない。
・選挙に係る経費を考えると、立候補を避けてしまう。
・議員は毎日何をやっているのかみえない。

・勉強をしない議員が多く、毎日何をやっているのかわからない。
・議員の魅力を感じない。
・議員は住民の声を聴く機会が少ない。

〇所感
・議員に立候補するにあたっての環境整備をしないと、これからますます議員のなり手は減少すると思う。
・現在、定数以上の立候補者がいる市町村でも、いつ定数割れになるかもしれないので、危機意識を持つ必要があるのではないか。
・議員の人事評価を行っている市議会もあり、これを取り入れることで、議員活動の刺激にもなるのではないか。

〇考察
現代の社会において、運送業、農業、公務員、教員など至る業種で人材不足が叫ばれている。中でも地方議員のなり手不足は、住民の生活に大きく関わってくる問題であるため、早急に対策を講じる必要がある。今回、議員のなり手不足問題について、いろいろな取組などを共有できた。

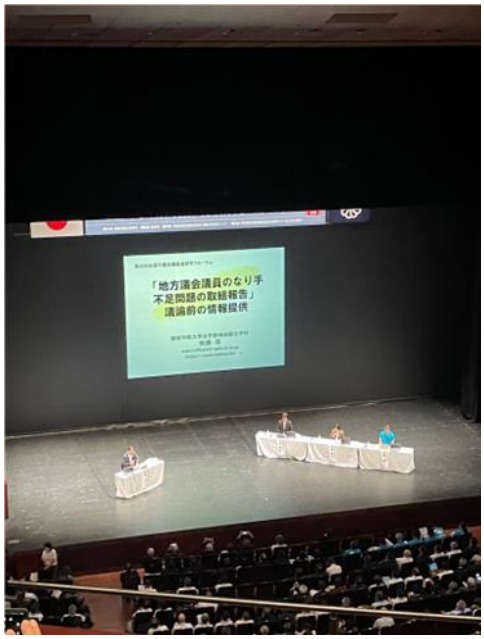
なり手不足解消に向けては、まずは、生活課題を解決し、自分のまちを良くしたいという思いのある人材を生み出す仕掛けが必要と考える。まちづくりの団体に所属したり、講座に参加したりして、何かのきっかけづくりからステップアップしていけると良いのではないか。

つい最近の新聞に選挙のノウハウや議員の仕事を学ぼうと女性議員らでつくるネットワークが、選挙連続講座を開催すると掲載されていた。このような機会をきっかけに女性議員が増えていくことを期待するところである。

また、もう一つ大事なことは、子どもからの主権者教育だ。近年、「こども議会」、「学生議会」、「模擬議会」という場面が各市町村で増えつつある。このような機会も議員を目指す大きなきっかけづくりの役割を担っているため、議会と学校との連携は重要になってくる。

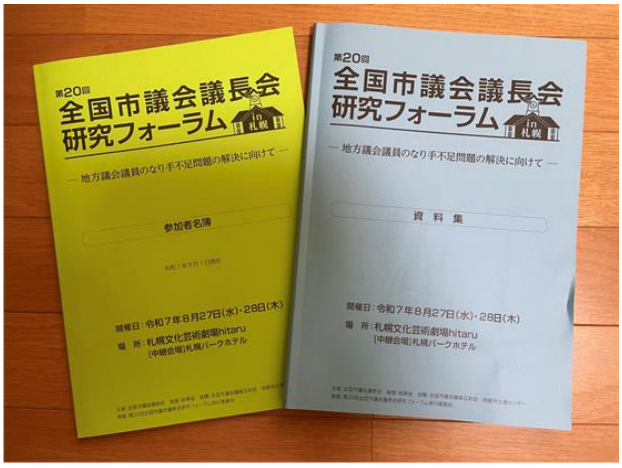
いずれにしても、立候補や報酬等の問題はあるものの、議員への情熱をもった人材育成・確保に矛先を向けることも肝要であると考える。

全国市議会議長会研究フォーラムin札幌　　令和7年8月27日(水)～28日(木)
場所：札幌文化芸術劇場hitaru
大会テーマ：地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて



会場内

会場入り口にて



資料